



# 平成27年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス  
 コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 斎藤 公利

TEL 03-4332-9701

四半期報告書提出予定日 平成26年7月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成27年2月期第1四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第1四半期	44,325	4.2	885	—	944	—	555	—
26年2月期第1四半期	42,537	6.6	△756	—	△403	—	△497	—

(注) 包括利益 27年2月期第1四半期 522百万円 (—%) 26年2月期第1四半期 △349百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第1四半期	10.81	—
26年2月期第1四半期	△9.68	—

(注) 平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年2月期第1四半期	99,351	43,414	43.0
26年2月期	95,524	43,412	44.8

(参考) 自己資本 27年2月期第1四半期 42,748百万円 26年2月期 42,749百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	1,000.00	—	10.00	—
27年2月期	—	—	—	—	—
27年2月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成26年2月期における第2四半期末の配当金につきましては、株式分割前の数値で算定しておりますが、期末の配当金につきましては、株式分割後の数値で算定しております。

## 3. 平成27年 2月期の連結業績予想(平成26年 3月 1日～平成27年 2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	87,500	0.9	1,400	98.3	1,550	21.7	500	123.2	9.73
通期	175,000	0.9	3,300	51.4	3,700	13.1	1,000	43.3	19.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期1Q	66,240,500 株	26年2月期	66,240,500 株
② 期末自己株式数	27年2月期1Q	14,845,900 株	26年2月期	14,845,900 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期1Q	51,394,600 株	26年2月期1Q	51,394,600 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 経営成績に関する説明 .....	P. 2
(2) 財政状態に関する説明 .....	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	P. 4
4. 四半期連結財務諸表 .....	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	P. 9
(継続企業の前提に関する注記) .....	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	P. 9
(セグメント情報等) .....	P. 9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成26年3月1日から平成26年5月31日)の連結業績は、連結売上高が443億2500万円(前年同期比4.2%増)、連結営業利益は8億8500万円(前年同四半期は連結営業損失7億5600万円)、連結経常利益9億4400万円(前年同四半期は連結経常損失4億3000万円)、連結四半期純利益5億5500万円(前年同四半期は連結四半期純損失4億9700万円)となりました。

平成26年4月1日より施行された消費税の増税の影響は、各セグメントにおいて当第1四半期末まではほとんど見られず、すべてのセグメント別の売上高、セグメント利益で増収増益を達成いたしました。特に国内吉野家が大幅な増益となっております。

当社グループは、成長テーマである「リ・イノベーション」を実現していくため、よりスピーディーな意思決定が可能となるグループ経営体制への見直しを進めております。前期より開始したグループ間での人事交流の活性化、グループ商品本部による仕入れの共通化や、(株)吉野家インターナショナルによるグループ各社の海外事業展開の統括も開始いたします。また、指導・監督層や幹部候補層の人材にリーダー教育を実施していく「グループアカデミー」も本格稼働いたします。「リ・イノベーション」の実現のため、ダイバーシティ(人材構成の多様化)の推進も引き続き行ってまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

なお、前第3四半期連結会計期間より報告セグメントの利益又は損失の測定方法を変更し、当第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更しております。以下の前年同四半期との比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分、測定方法に基づき作成した数値で比較しております。セグメント区分の変更及び報告セグメントの測定方法の変更の詳細につきましては、P10「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

#### [国内吉野家]

国内吉野家の同期間の連結売上高は、232億1800万円と、対前年同期比1.6%の増収となりました。

増収の主な要因は、前期に発売いたしました「牛すき鍋膳」が3月以降も好調に推移したことなどにより、既存店売上高前年比が+1.8%となったことによります。また、4月1日から商品価格の見直しを実施すると共に、牛丼の品質向上に取り組みました。圧倒的に「うまい」牛丼を目指し、牛丼の重要な3要素である「牛肉」「たれ」「玉ねぎ」の品質向上に取り組みました。「牛肉」は「熟成」というテーマのもと、加工工程を変更し肉のうまみの増加と食感の向上に取り組みました。「たれ」については、最適な素材や配合量を追求し、原料ひとつひとつを見直し、たれ全体のまろやかさ、香りをより高めました。「玉ねぎ」は煮込み段階での増量を行い、お客様からの「もう少し玉ねぎを増やして欲しい」というご要望にお応えすると共に、自然な甘さを増しております。セグメント利益は、食材原価の高止まりは前期から継続しているものの、増収により、8億7500万円(前年同四半期はセグメント損失4億2500万円)と、増益となりました。同期間の店舗数は、13店舗を出店し、6店舗を閉鎖した結果、1,198店舗となりました。

#### [海外吉野家]

海外吉野家の同期間の連結売上高は、33億6900万円と、対前年同期比19.4%の増収となりました。

増収の主な要因は、米国での既存店売上増および、アジアでの店舗数が増加したことによります。第1四半期末の海外吉野家全体の店舗数は前年同期と比べ36店舗増加いたしました。セグメント利益では、増収により、5200万円(前年同四半期はセグメント損失7000万円)と、増益となりました。同期間の店舗数は、13店舗を出店し、9店舗を閉鎖した結果、640店舗となりました。

#### [はなまる]

はなまるの同期間の連結売上高は、50億5500万円と、対前年同期比7.0%の増収となりました。

増収の主な要因は、店舗数の増加によるもので、第1四半期末のはなまるの店舗数は、前年同期と比べ16店舗増加いたしました。3月からは国産野菜を温野菜に仕立てた「ちゃんぽんうどん」の発売を始め、5月にはあらゆる立地に出店可能となる自慢のかけだしを活かした新業態「はなまる屋」をオープンしました。セグメント利益は、増収により、3億5300万円と、対前年同期比28.4%の増益となりました。同期間の店舗数は、12店舗を出店し、2店舗を閉鎖した結果、366店舗となりました。

[どん]

どんの同期間の連結売上高は、59億21百万円と、対前年同期比7.7%の増収となりました。

増収の主な要因は、フォルクスの店舗改装効果等により、既存店売上高前年比が+7.6%となったことによります。また、全業態で店舗活性化策の実践に取り組み、「ステーキのどん」では、4月から多くのお客様から復活を要望されておりました「どんステーキ」の進化版「どんステグリル」を発売しました。セグメント利益は、増収により、1億98百万円と、対前年同期比120.1%の増益となりました。同期間の店舗数は、1店舗を出店した結果、176店舗となりました。

[京樽]

京樽の同期間の連結売上高は、62億19百万円と、対前年同期比4.2%の増収となりました。

増収の主な要因は、前期から推し進めている「原点回帰」のもと、商品やサービスの上質化や販売促進策が奏功し、既存店売上高前年比が+1.9%となったこと等によります。セグメント利益は、増収により、1億32百万円と、対前年同期比1,632.5%の増益となりました。同期間の店舗数は、4店舗を出店し、4店舗を閉鎖した結果、328店舗となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は993億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億26百万円の増加となりました。これは主として、現金及び預金が15億94百万円増加したことと商品及び製品が5億81百万円増加したことによるものです。

負債は559億36百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億24百万円の増加となりました。これは主として、長期借入金75億63百万円増加したことと、支払手形及び買掛金が4億77百万円増加したことによるものです。

純資産は434億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ1百万円の増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の通期の業績予想につきましては、平成26年4月11日の決算短信発表時に公表いたしました数値から修正はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
  
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
  
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,174	19,769
受取手形及び売掛金	3,412	3,891
商品及び製品	2,826	3,406
仕掛品	55	34
原材料及び貯蔵品	2,868	3,374
その他	2,746	3,141
貸倒引当金	△3	△6
流動資産合計	30,079	33,611
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	24,803	25,237
その他(純額)	13,432	13,790
有形固定資産合計	38,236	39,027
無形固定資産		
のれん	1,471	1,426
その他	2,025	1,985
無形固定資産合計	3,497	3,412
投資その他の資産		
投資有価証券	1,087	1,108
差入保証金	15,142	15,154
繰延税金資産	929	821
その他	6,732	6,395
貸倒引当金	△181	△180
投資その他の資産合計	23,710	23,299
固定資産合計	65,444	65,739
資産合計	95,524	99,351

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,776	5,254
短期借入金	17,698	11,724
1年内返済予定の長期借入金	4,614	4,638
リース債務	606	679
未払法人税等	1,455	499
賞与引当金	1,359	1,944
役員賞与引当金	112	26
株主優待引当金	216	381
資産除去債務	8	12
その他	7,823	9,910
流動負債合計	38,673	35,072
固定負債		
社債	750	750
長期借入金	6,725	14,289
リース債務	1,096	1,288
退職給付引当金	626	631
資産除去債務	2,318	2,291
その他	1,921	1,613
固定負債合計	13,438	20,864
負債合計	52,112	55,936
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,139	11,139
利益剰余金	40,776	40,798
自己株式	△18,089	△18,089
株主資本合計	44,091	44,113
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3	△3
為替換算調整勘定	△1,339	△1,361
その他の包括利益累計額合計	△1,342	△1,365
少数株主持分	663	666
純資産合計	43,412	43,414
負債純資産合計	95,524	99,351



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	42,537	44,325
売上原価	15,882	16,299
売上総利益	26,654	28,026
販売費及び一般管理費	27,411	27,140
営業利益又は営業損失(△)	△756	885
営業外収益		
受取利息	10	12
受取配当金	90	0
賃貸収入	95	89
持分法による投資利益	27	21
雑収入	311	131
営業外収益合計	535	255
営業外費用		
支払利息	92	80
賃貸費用	68	67
雑損失	22	48
営業外費用合計	182	197
経常利益又は経常損失(△)	△403	944
特別利益		
固定資産売却益	-	336
特別利益合計	-	336
特別損失		
減損損失	158	136
契約解約損	5	13
特別損失合計	164	150
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△568	1,130
法人税、住民税及び事業税	180	568
法人税等調整額	△226	6
法人税等合計	△46	574
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△521	555
少数株主損失(△)	△24	△0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△497	555

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△521	555
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△0
為替換算調整勘定	170	△32
その他の包括利益合計	172	△33
四半期包括利益	△349	522
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△353	533
少数株主に係る四半期包括利益	4	△10

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	国内 吉野家	海外 吉野家	はなまる	どん	京樽	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	22,453	2,822	4,724	5,457	5,949	41,407	1,129	42,537	—	42,537
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	389	—	—	40	19	449	99	548	△548	—
計	22,843	2,822	4,724	5,497	5,968	41,856	1,228	43,085	△548	42,537
セグメント利益 又は損失(△)	△425	△7	275	90	7	△59	9	△50	△706	△756

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社4社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△706百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△724百万円、セグメント間取引消去55百万円、及びのれんの償却額△37百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年5月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 3
	国内 吉野家	海外 吉野家	はなまる	どん	京樽	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	23,036	3,369	5,046	5,919	6,199	43,571	754	44,325	—	44,325
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	181	—	9	2	20	212	115	328	△328	—
計	23,218	3,369	5,055	5,921	6,219	43,784	870	44,654	△328	44,325
セグメント利益	875	52	353	198	132	1,613	40	1,653	△767	885

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社4社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△767百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△791百万円、セグメント間取引消去61百万円、及びのれんの償却額△37百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

### (セグメント区分の変更)

当第1四半期連結会計期間より、当社グループ内の事業再編に伴い、従来「その他」に属しておりました株式会社千吉の事業を「はなまる」セグメントの区分に変更しております。

なお、前第1四半期累計会計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

### (事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

前第3四半期連結会計期間より、当社グループ内における取締役の兼務状況を見直したことに伴い、各事業セグメント間の比較可能性を高める目的で、(株)吉野家、(株)吉野家インターナショナル及びヨシノヤアメリカ・インクから当社へのロイヤリティの配分方法を、全社セグメントに配分する方法から国内吉野家及び海外吉野家セグメントへ配分する方法に見直し、当社の取締役会に提供する各事業セグメントの損益の測定方法を変更しております。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第1四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「国内吉野家」で245百万円、「海外吉野家」で119百万円増加しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失においても、変更後の測定方法に基づき作成したものを開示しております。